



平成22年9月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成22年8月12日

上場会社名 東福製粉株式会社 上場取引所 東2・福
 コード番号 2006 URL <http://www.tofuku.co.jp>
 代表者 (役職名) 取締役社長 (氏名) 野上 英一 (TEL) 092 (781) 1661
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 玉置 隆 配当支払開始予定日 -
 四半期報告書提出予定日 平成22年8月13日
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 平成22年9月期第3四半期の連結業績（平成21年10月1日～平成22年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年9月期第3四半期	2,719	△16.7	66	-	81	-	62	-
21年9月期第3四半期	3,266	-	2	-	△32	-	△29	-

	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益	
	円	銭	円	銭
22年9月期第3四半期	6	31	-	-
21年9月期第3四半期	△3	01	-	-

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	百万円	百万円	百万円	%	円	銭	
22年9月期第3四半期	3,851	1,730	1,730	44.9	173	74		
21年9月期	3,964	1,675	1,675	42.3	168	12		

(参考) 自己資本 22年9月期第3四半期 1,730百万円 21年9月期 1,675百万円

2. 配当の状況

	年間配当金						
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計		
	円	銭	円	銭	円	銭	
21年9月期	-	-	-	0	00	0	00
22年9月期	-	-	-	-	-	-	-
22年9月期(予想)	-	-	-	0	00	0	00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無：無

3. 平成22年9月期の連結業績予想（平成21年10月1日～平成22年9月30日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
通期	4,000	△5.9	85	142.9	95	-	70	-	7	00

(注) 当四半期における業績予想の修正有無：無

4. その他（詳細は、【添付資料】P. 3「その他の情報」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動：無

(注) 当四半期会計期間における連範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用：有

(注) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更：無

② ①以外の変更：無

(注) 「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

22年9月期3Q	10,000,000株	21年9月期	10,000,000株
22年9月期3Q	38,031株	21年9月期	36,633株
22年9月期3Q	9,962,447株	21年9月期3Q	9,964,333株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数（四半期累計）

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記業績につきましては、現時点で入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績等は今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。なお、上記業績予想に関する事項は、3ページ「1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報 (3) 連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報	
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	2
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. その他の情報	
(1) 重要な子会社の異動の概要	3
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	3
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	3
(4) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要	3
3. 四半期連結財務諸表	
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 継続企業の前提に関する注記	8
(5) セグメント情報	8
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	8

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間(平成21年10月1日～平成22年6月30日)における我が国の経済は、海外における新興国を中心とする経済回復基調が継続する中、輸出の回復等による企業業績の改善は見えますが、雇用情勢は依然として改善せず、景気は欧州等の信用不安問題が影響し、先行き不透明なまま推移しております。

製粉業界におきましては、昨年10月に政府売渡小麦価格が約23%引き下げられたのに続き、本年4月にも約5%の引き下げが実施され、値下がり傾向は続いております。また、宮崎県で発生した口蹄疫問題による飼料用穀物の需要減少など、厳しい市場環境にありました。

このような中、当社グループは新規顧客の開拓等の販売強化を始め、製造効率の向上やコストの低減等に注力すると共に、製品の安全・安心及び生産の効率化を主体とする二期目の設備投資として、バラ出荷設備の増設を行いました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高27億1千9百万円(前年同期比16.7%減)、営業利益6千6百万円(前年同期は営業利益2百万円)、経常利益8千1百万円(前年同期は経常損失3千2百万円)、第3四半期純利益6千2百万円(前年同期は第3四半期純損失2千9百万円)となりました。

事業部門別の状況は次のとおりであります。

〈製粉事業〉

製粉事業におきましては、主力の小麦粉市場が企業間競争で益々激化する中、弊社は、現地、現場に対応した営業戦略を中心として、新規開拓に力を注いで参りましたが、政府売渡小麦価格の引き下げに伴う小麦粉価格改定の影響により、製品の売上高は、17億6千5百万円(前年同期比18.8%減)となりました。副製品のふすまは、口蹄疫問題による需要の減少や飼料用穀物価格の変動等が影響し、1億4千5百万円(前年同期比15.8%減)となりました。その他の部門におきましては、ミックス粉は小麦粉と同様に厳しい市場環境下にあり、1億2千5百万円(前年同期比21.1%減)となりました。また、麺類・穀類・その他商品につきましては、個人消費の低迷や梅雨時の豪雨等に見まわれたため、贈答用乾麺の販売が振るわず6億3千1百万円(前年同期比9.7%減)となりました。不動産収入は、預かり物件の減少や一部で家賃引き下げを行いましたので、2千3百万円(前年同期比12.1%減)となりました。

以上の結果、製粉事業の売上高は、26億9千2百万円(前年同期比16.7%減)、営業利益2億4千5百万円(前年同期比33.3%増)となりました。

〈不動産賃貸事業〉

子会社で展開している不動産賃貸事業におきましては、家賃の引き下げを行いましたので、不動産賃貸事業の売上高は、2千7百万円(前年同期比19.4%減)、営業利益1千万円(前年同期比34.2%減)となりました。

損益面につきましては、徹底した販管費の削減(前年同期比12.8%減)に努め、また営業外損益で持分法投資利益2千8百万円(前年同期は持分法投資損失1千3百万円)を計上しましたので、当第3四半期純利益は、6千2百万円(前年同期は第3四半期純損失2千9百万円)となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第3四半期連結会計期間末の総資産残高は、前連結会計年度末(平成21年9月30日)に比べ1億1千2百万円減少し、38億5千1百万円となりました。その主な要因は、たな卸資産が減少したことによるものであります。また、負債につきましては、前年連結会計年度末に比べ1億6千8百万円減少し、21億2千万円となりました。その主な要因は、長期借入金の減少によるものであります。純資産につきましては、利益剰余金が6千2百万円増加しましたので、前連結会計年度末に比べ5千5百万円増加し、17億3千万円となりました。

〈キャッシュ・フローの状況〉

当第3四半期会計期間末における現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末に比べ3千5百万円増加し、4億4千3百万円となりました。当第3四半期連結累計期間の各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次の通りであります。

営業活動によるキャッシュ・フローは、2億9千1百万円の収入(前年同期比12.6%減)となりました。この主な要因は、税金等調整前四半期純利益の増加やたな卸資産の減少によるものであります。

投資活動によるキャッシュ・フローは、6千6百万円の支出(前年同期比33.3%減)となりました。この主な要因は、有形固定資産取得のための支出によるものであります。

財務活動によるキャッシュ・フローは、1億8千9百万円の支出(前年同期は5百万円の支出)となりました。この主な要因は、長期借入金の返済のための支出によるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

当第3四半期累計期間の連結業績は、政府売渡小麦価格の引き下げの影響など、依然として厳しい市場環境下にあり、販売努力にも係らず売上高は計画を下回りました。しかし損益面については、製造効率の向上やコスト削減並びに持分法による投資利益の計上により当第3四半期純利益は6千2百万円となり、計画を上回りました。また、通期に関しましては依然として雇用情勢の悪化による個人消費の低迷は回復の兆しが見えず、また口蹄疫問題による飼料用穀物の需要の落ち込みなど、不透明な状況が続いておりますので、平成22年9月期通期業績予想につきましては、平成21年11月19日に開示致しました「平成21年9月期決算短信」のとおり、業績予想を変更しておりません。

2. その他の情報

(1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

①当第3四半期連結会計期間末のたな卸高の算出に関しては、実地たな卸を省略し、前四半期連結会計期間末の実地たな卸高を基礎として合理的な方法により算出する方法によっております。

②定率法を採用している固定資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

該当事項はありません。

(4) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	443,184	418,014
受取手形及び売掛金	517,105	517,349
有価証券	—	20,000
商品及び製品	268,987	330,255
原材料及び貯蔵品	205,068	250,880
その他	33,762	38,115
貸倒引当金	△15,415	△20,583
流動資産合計	1,452,692	1,554,030
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	815,462	848,799
機械装置及び運搬具(純額)	664,689	644,729
その他(純額)	138,473	135,165
有形固定資産合計	1,618,626	1,628,694
無形固定資産		
	1,458	2,916
投資その他の資産		
投資有価証券	532,659	515,424
その他	370,093	385,640
貸倒引当金	△123,817	△122,114
投資その他の資産合計	778,936	778,950
固定資産合計	2,399,020	2,410,561
資産合計	3,851,713	3,964,592
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	101,339	90,042
短期借入金	1,070,000	1,058,000
1年内返済予定の長期借入金	180,812	228,512
1年内償還予定の社債	40,000	40,000
未払法人税等	4,613	1,491
賞与引当金	10,023	20,155
その他	191,705	185,691
流動負債合計	1,598,494	1,623,892
固定負債		
社債	100,000	120,000
長期借入金	330,004	463,988
退職給付引当金	1,833	3,578
その他	90,633	78,064
固定負債合計	522,470	665,630
負債合計	2,120,964	2,289,523

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	500,000	500,000
資本剰余金	67,876	67,876
利益剰余金	1,169,755	1,106,844
自己株式	△3,309	△3,208
株主資本合計	1,734,321	1,671,512
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△3,573	3,556
評価・換算差額等合計	△3,573	3,556
純資産合計	1,730,748	1,675,069
負債純資産合計	3,851,713	3,964,592

(2) 四半期連結損益計算書
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成20年10月1日 至平成21年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年10月1日 至平成22年6月30日)
売上高	3,266,023	2,719,809
売上原価	2,757,014	2,212,112
売上総利益	509,009	507,696
販売費及び一般管理費	506,689	441,636
営業利益	2,319	66,060
営業外収益		
受取利息	1,033	718
受取配当金	5,409	6,096
持分法による投資利益	—	28,612
その他	4,502	9,130
営業外収益合計	10,945	44,556
営業外費用		
支払利息	29,870	27,682
持分法による投資損失	13,836	—
その他	2,518	1,495
営業外費用合計	46,225	29,177
経常利益又は経常損失(△)	△32,961	81,439
特別利益		
固定資産売却益	350	—
投資有価証券売却益	—	7,886
貸倒引当金戻入額	—	2,799
特別利益合計	350	10,685
特別損失		
たな卸資産評価損	1,886	—
固定資産除却損	—	6,243
貸倒引当金繰入額	12,510	—
その他	2,906	—
特別損失合計	17,304	6,243
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△49,915	85,882
法人税、住民税及び事業税	890	3,622
法人税等調整額	△20,825	19,349
法人税等合計	△19,935	22,971
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△29,980	62,910

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成20年10月1日 至平成21年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年10月1日 至平成22年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△49,915	85,882
減価償却費	84,503	91,024
貸倒引当金の増減額(△は減少)	60,334	△3,465
賞与引当金の増減額(△は減少)	△10,669	△10,131
前払年金費用の増減額(△は増加)	3,530	10,294
受取利息及び受取配当金	△6,442	△6,814
支払利息	29,870	27,682
持分法による投資損益(△は益)	13,836	△28,612
有形固定資産売却損益(△は益)	△350	—
固定資産除却損	1,594	6,243
投資有価証券売却及び評価損益(△は益)	1,312	△7,886
売上債権の増減額(△は増加)	△47,582	7,470
たな卸資産の増減額(△は増加)	216,751	107,079
仕入債務の増減額(△は減少)	△17,145	11,297
その他	78,959	21,054
小計	358,587	311,118
利息及び配当金の受取額	7,528	7,900
利息の支払額	△32,025	△26,683
法人税等の支払額	△1,178	△1,070
営業活動によるキャッシュ・フロー	332,912	291,264
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△10,250	—
定期預金の払戻による収入	700	10,000
有形固定資産の取得による支出	△88,620	△100,274
有形固定資産の売却による収入	459	—
有形固定資産の除却による支出	—	△3,356
投資有価証券の取得による支出	△1,394	△1,437
投資有価証券の売却による収入	—	10,391
有価証券の償還による収入	—	20,000
その他	△60	△1,631
投資活動によるキャッシュ・フロー	△99,166	△66,309
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△94,500	12,000
長期借入れによる収入	300,000	—
長期借入金の返済による支出	△191,084	△181,684
社債の償還による支出	△20,000	△20,000
自己株式の取得による支出	△96	△101
自己株式の処分による収入	46	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△5,634	△189,785
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	228,111	35,169
現金及び現金同等物の期首残高	239,416	408,014
現金及び現金同等物の四半期末残高	467,527	443,184

- (4) 継続企業の前提に関する注記
該当事項はありません。

(5) セグメント情報

[事業の種類別セグメント情報]

前第3四半期連結累計期間(自平成20年10月1日 至平成21年6月30日)

	製粉事業 (千円)	不動産 賃貸事業 (千円)	計 (千円)	消去又は全社 (千円)	連結 (千円)
I 売上高及び営業損益					
売上高					
(1)外部顧客に対する売上高	3,231,738	34,285	3,266,023	—	3,266,023
(2)セグメント間の内部売上 高又は振替高	—	—	—	—	—
計	3,231,738	34,285	3,266,023	—	3,266,023
営業利益	183,867	16,585	200,453	△198,134	2,319

当第3四半期連結累計期間(自平成21年10月1日 至平成22年6月30日)

	製粉事業 (千円)	不動産 賃貸事業 (千円)	計 (千円)	消去又は全社 (千円)	連結 (千円)
I 売上高及び営業損益					
売上高					
(1)外部顧客に対する売上高	2,692,190	27,619	2,719,809	—	2,719,809
(2)セグメント間の内部売上 高又は振替高	—	—	—	—	—
計	2,692,190	27,619	2,719,809	—	2,719,809
営業利益又は営業損失(△)	245,033	10,912	255,946	△189,885	66,060

(注) 1. 事業区分は、内部管理上採用している区分によっております。

2. 各事業の主な製品及び内容

- (1) 製粉事業 …………… 小麦粉、ふすま、ミックス粉、麺類等
(2) 不動産賃貸事業 …… 娯楽遊戯施設の賃貸

[所在地別セグメント情報]

本国以外の国又は地域に所在する支店及び連結子会社が無いため記載しておりません。

[海外売上高]

海外売上高が無いため記載しておりません。

- (6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記
該当事項はありません。